

神田川周辺における親水空間の設計

1190069 児玉 和樹
高知工科大学 システム工学群
建築・都市デザイン専攻
指導教員 重山陽一郎

1 背景と目的

現在の河川は経済発展と共に、水辺と街の間に隔たりが生じてしまった。それは、私たちが本来あるべき河川の自然を犠牲にし、河川改修を進めてきたためだ。しかし、河川改修は洪水などから、私たちの身を守るためでもあった。そこで、私は河川としての機能を維持しつつ、地域の人々や観光客の方々が親しみあえる空間にしようと考えた。

2 「千代田区の水辺再生への提案」コンペ概要

対象敷地：千代田にある水辺空間うち、神田川・日本橋川・外濠とする

- 千代田区には、貴重な水辺空間が多く存在している。だが、近代化のなかで忘れられ、裏側になった場所も多い。磨き上げれば、水都東京を再生する重要な舞台になる大きな可能性を秘めている。場所の特性を活かした。近未来の東京につながる夢のある提案を求めたい

3 対象敷地

東京都千代田区にある秋葉原駅から南東に位置する神田川、和泉橋からJR山手線の線路までの177mの両側川沿いを対象とする。

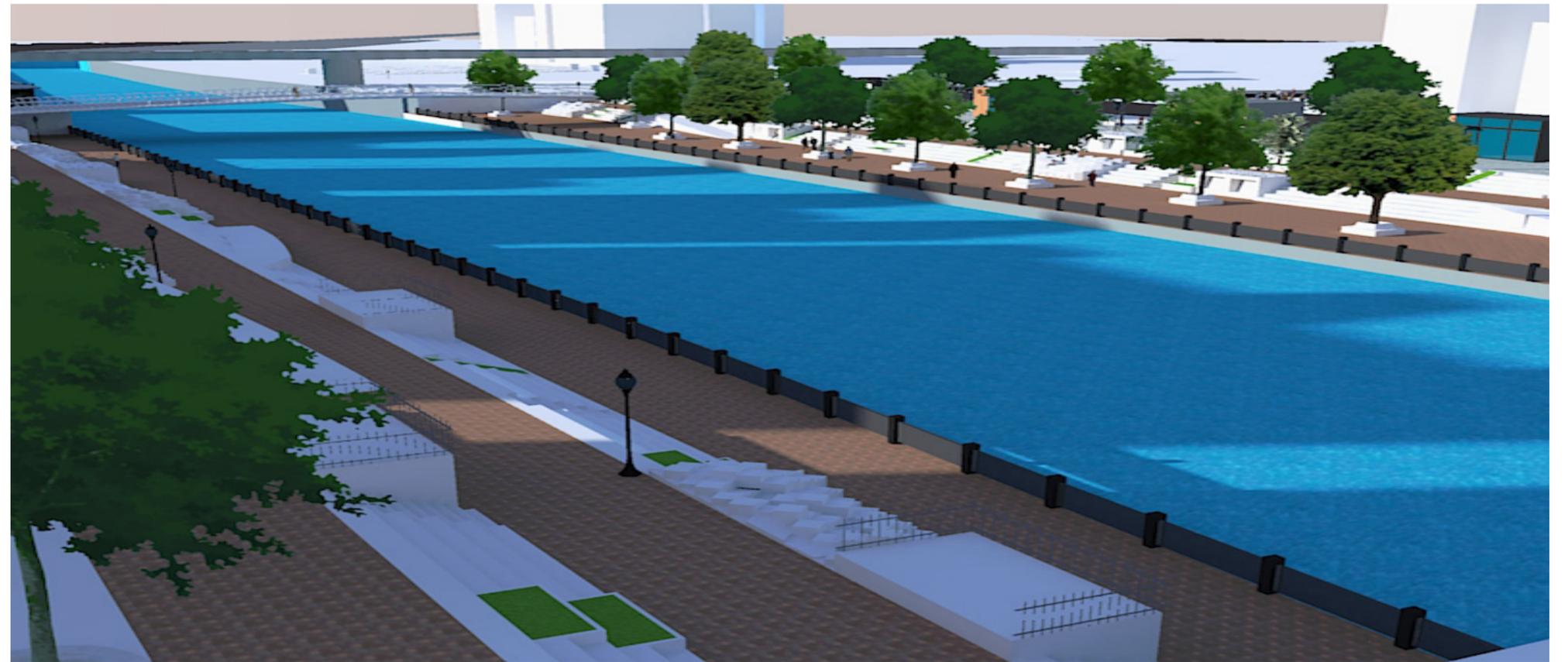
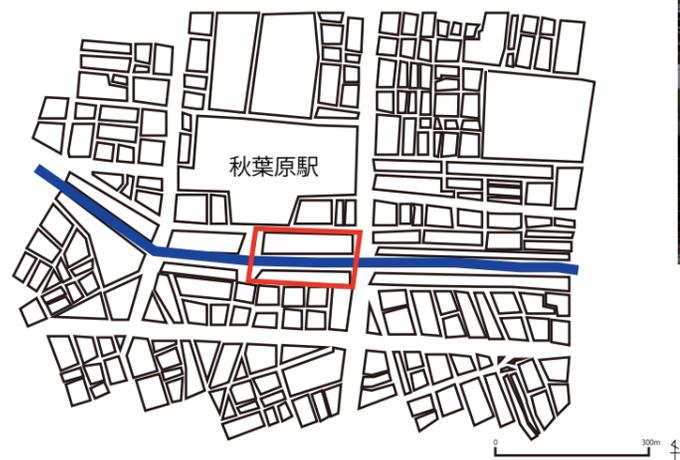


図1 和泉橋から駅方面の対象敷地

4 現状・問題点

千代田区に存在する河川には自然が感じられず、コンクリートが印象に残る河川である。治水・利水機能としての空間であり、人々が親しみ合える空間ではないこと。河川景観の消失が挙げられる。

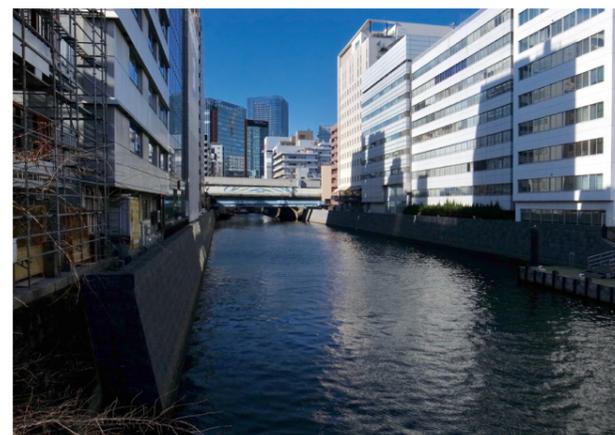


図2 和泉橋から駅方面の対象敷地の現状

5 設計方針

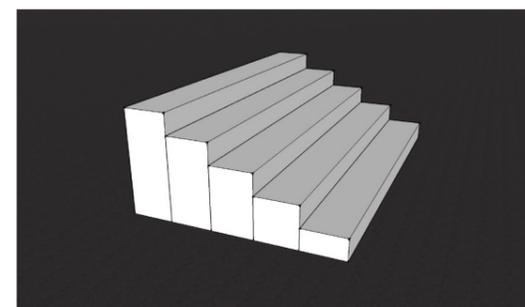
この空間で水と緑を感じて欲しいということから堤防と地盤の高さを3m下げた。下げたことによる洪水時の影響は周囲の建物にない。地盤を下げることによって、水と人との距離が小さくなり、親水性を感じられる。

全体的に階段型のベンチを設けることにより、休憩や軽食を楽しむ空間になる。

様々な種類の樹木によって緑を感じ、都会の中で水と自然を感じられる空間とした。

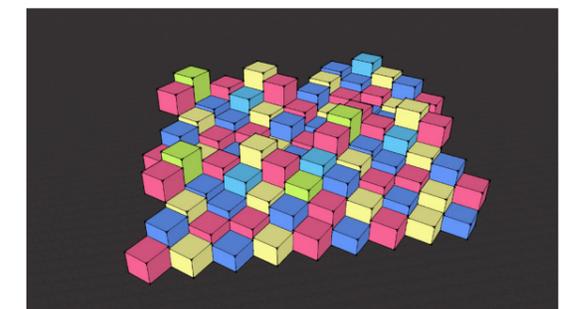
6 詳細設計

[1]階段状ベンチ



高低差を活かすために階段状のベンチにすることにした。オフィス街にこの空間があれば、ベンチで休憩や川や木々を眺め、心地よい空間へとなるだろう。ベンチは踏面600mm、蹴上300mmとなっている。全体の高さは1500mm、段数は5段。

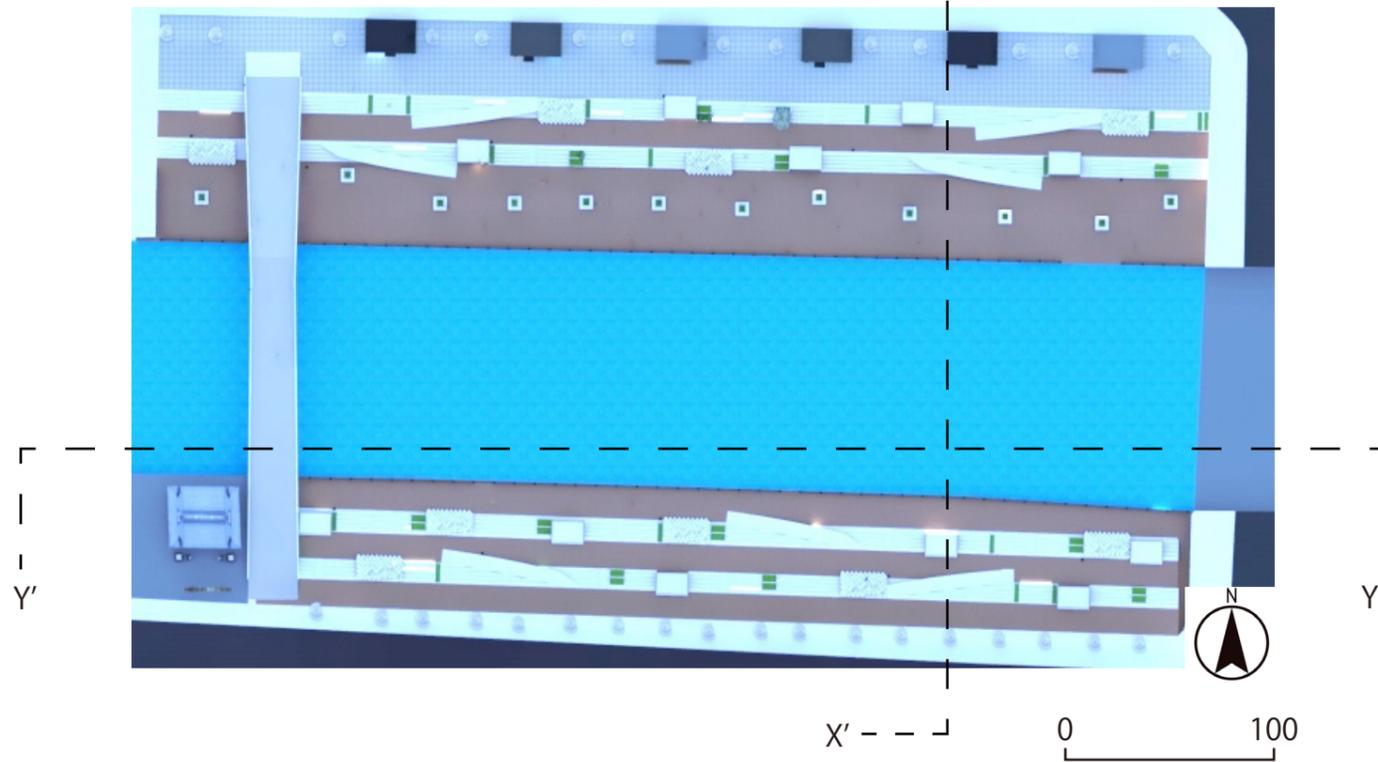
[2]ひし形状のベンチ



5つの高さの違う、ひし形を組み合わせることによって様々な座り方ができ、好きな高さで座れる。ベンチの高さは、350,400,450,500,550mmとなっている。

7 平面図

X - - -



8 断面図

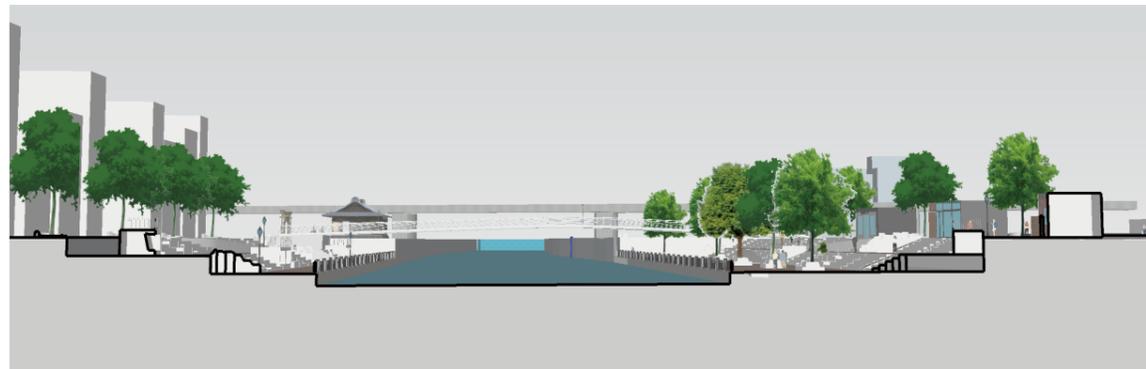


図3 X-X'断面図

9 まとめ

- ・地盤を下げることによって水と人との距離を縮め、水を今までよりも身近に感じられたのではないかと思う。
- ・様々な種類の樹木を植えることによって、色々な紅葉が楽しめる。また、秋葉原周辺では感じられなかった自然を感じられる空間となった。
- ・最後に秋葉原の新たなランドマークになったのではないかと思う。

9 詳細図



図5 歩道橋から見た北側広場



図6 北側ひし形ベンチ



図7 北側木のベンチ



図8 南側へのアクセス

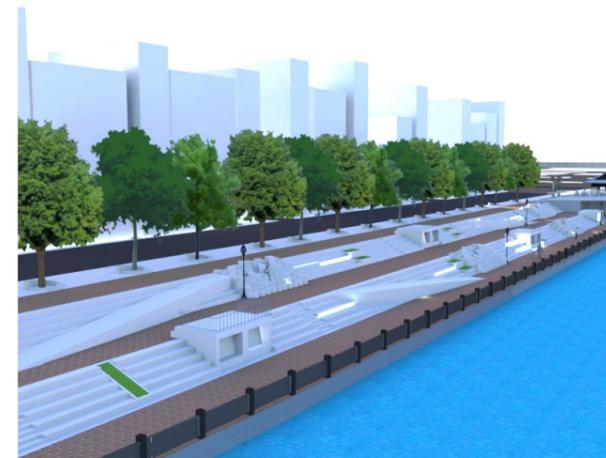


図9 北側広場から見た南側広場

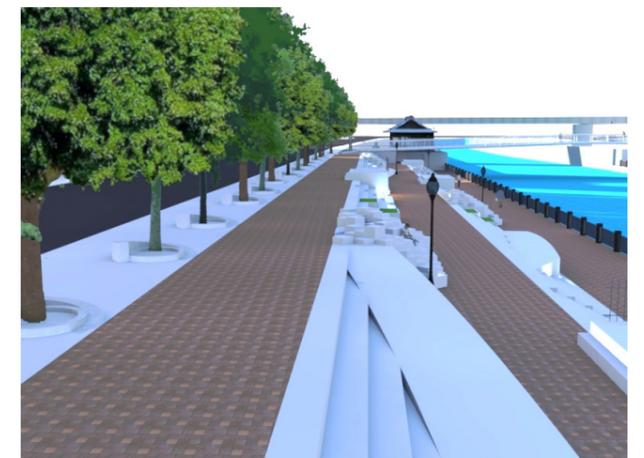


図10 南側広場の遊歩道



図11 上から見た北側広場と橋